

『JVA 2025 年上半期(1月～6月) 統計調査結果』について

当協会はこのたび、2025 年上半期(1月～6月)の JVA 会員メーカーのビデオソフト出荷統計をまとめましたので、その概要につきお知らせいたします。

2025 年上半期 (1月～6月) の実績について

1. 今期のビデオソフトの総売上金額は 423 億 900 万円で前年同期比 95.7%となった。フォーマット別にみると、DVD ビデオは 134 億 7,100 万円で前年同期比 97.3%、ブルーレイ (Ultra HD Blu-ray を含む。以下、ブルーレイと表記。) は 288 億 3,800 万円で同 95.0%となっており、DVD ビデオ、ブルーレイともに前年同期を下回る結果となった。DVD とブルーレイの構成比率をみると、ブルーレイの比率が 68.2%となっている。

<添付資料 表 1 >

2. ビデオソフト全体 (DVD ビデオとブルーレイの合計) の売上金額を販売用、レンタル店用の市場別にみても、販売用が 394 億 1,500 万円で前年同期比 97.8%、レンタル店用は 23 億 9,900 万円で同 78.4%となっており、販売用、レンタル店用ともに前年同期を下回る結果となった。販売用、特殊ルート、レンタル店用、業務用の売上金額における割合は、93.2 対 0.2 対 5.7 対 1.0 となっている。

<添付資料 表 4 >

3. DVD ビデオの販売用売上金額は 112 億 1,100 万円で前年同期比 105.0%、ブルーレイの販売用は 282 億 400 万円で同 95.1%となっており、DVD ビデオにおいては前年同期を上回る結果となった。また、販売用全体に占めるブルーレイの割合は 71.6%となっている。

<添付資料 表 5A >

販売用全体の売上金額をジャンル別にみても、『音楽 (邦楽)』が構成比 52.5%で第 1 位となった。同ジャンルは前年苦戦していたこともあり、前年同期比は 136.0%と大きく上回る結果となった。今期から新設された『日本のアニメーション (TV・OVA)』が構成比 17.8%で第 2 位となった。(なお、日本のアニメ合計では構成比 23.1%となり、

前年同期比は 71.8%と前年を大きく下回っている。) 構成比 7.6%で第 3 位の『日本の TV ドラマ』は前年同期比 98.8%と前年同期をわずかに下回った。構成比 5.4%で第 4 位の『邦画(TV ドラマを除く)』は同 81.3%と、前年同期を大きく下回る結果となった。構成比第 1 位の『音楽 (邦楽)』では、『Snow Man Dome Tour 2024 RAYS』や『なにわ男子 LIVE TOUR 2024 '+Alpha'』等の作品が好調な売り上げで構成比拡大に貢献した。音楽ジャンルだけで販売用全体の半数を占めている。

<添付資料 表 7 >

4. ブルーレイの販売用をジャンル別に見てみると、『音楽 (邦楽)』が構成比 51.1%で第 1 位となった。前年同期比は 131.7%と前年同期を大きく上回っている。一方、構成比 5.8%で第 3 位の『日本の TV ドラマ』は前年同期比 94.9%と前年同期を下回る結果となった。今期から新設された『日本のアニメーション (TV・OVA)』が構成比 21.8%で第 2 位に、『劇場版 日本のアニメーション』が構成比 5.6%で第 4 位となった。(なお、日本のアニメ合計では構成比 27.4%となり、前年同期比は 72.5%と前年を大きく下回っている。)

<添付資料 表 7 >

5. DVD ビデオの販売用をジャンル別に見てみると、『音楽 (邦楽)』が構成比 56.3%で第 1 位となった。前年同期比は 146.9%と前年同期を大きく上回っている。また、構成比 12.0%で第 2 位の『日本の TV ドラマ』も同 104.0%と前年同期を上回る結果となった。今期から新設された『日本のアニメーション (TV・OVA)』が構成比 8.0%で第 3 位となった。(なお、日本のアニメ合計では構成比 12.3%となり、前年同期比は 68.2%と前年を大きく下回っている。) 一方、構成比 7.5%で第 4 位の『邦画(TV ドラマを除く)』は前年同期比 95.2%と前年同期を下回る結果となった。

<添付資料 表 7 >

6. レンタル店用全体の総売上金額における DVD ビデオとブルーレイの構成比は、84.4 対 15.3 となり、DVD ビデオが全体の殆どを占める状況が続いているが、前年同期と比べブルーレイの構成比が拡大した。DVD ビデオのレンタル店用の売上金額が 20 億 2,600 万円 で前年同期比 70.6%、ブルーレイは 3 億 7,300 万円 で同 193.1%と、ブルーレイが前年同期を大きく上回る結果となった。

<添付資料 表 5B >

7. レンタル店用全体の売上金額をジャンル別にみても、今期から新設された『日本のアニメーション (TV・OVA)』が構成比 31.3%で第 1 位となった。(なお、日本のアニメ合計では構成比 37.4%となり、前年同期比は 95.7%と前年を下回っている。) 構成比 19.5%で第 2 位の『邦画(TV ドラマを除く)』が前年同期比 90.1%、構成比 16.9%で第 3 位の

『アジアのTVドラマ』が同64.6%と、それぞれ前年同期を下回った。この上位3ジャンルで、レンタル店用全体の6割強を占めている。一方、構成比9.7%で第4位の『日本のTVドラマ』は前年同期比110.3%と前年同期を上回る結果となった。

<添付資料 表8>

8. 売上金額を売上数量で割って求めた1枚当たりの単価を見てみると、DVDビデオ及びブルーレイの「販売用」の平均単価はDVDビデオで4,130円、ブルーレイで6,856円となっており、DVDビデオについては前年同期から単価が大きく上昇し、ブルーレイについてはほぼ前年並みとなった。また、「レンタル店用」の平均単価もDVDビデオで1,310円、ブルーレイで2,369円となり、こちらはDVDビデオ、ブルーレイともに前年同期から単価が下がる結果となった。

<添付資料 表6>

以上

追記

<本統計調査報告についての注意点>

- 本報告は、JVA 会員社が発売、販売する自社作品および他社作品の出荷段階の売上をまとめた統計である。
- 返品分は金額、数量とも調査時点において差し引いている。
- DVD とブルーレイのコンボ作品はブルーレイにカウントしている。
- ブルーレイの売上にはUltra HD ブルーレイの売上を含む。
- 「特殊ルート」とは、雑誌やコミック、食玩などとして他商品に付帯されるものの売上のこと。